

市制40周年記念

棟方志功

— 生命の歡喜 —

10月5日[金] ⇒ 11月4日[日]

AM9:00—PM4:30(初日開館AM11:00) / 月曜休館

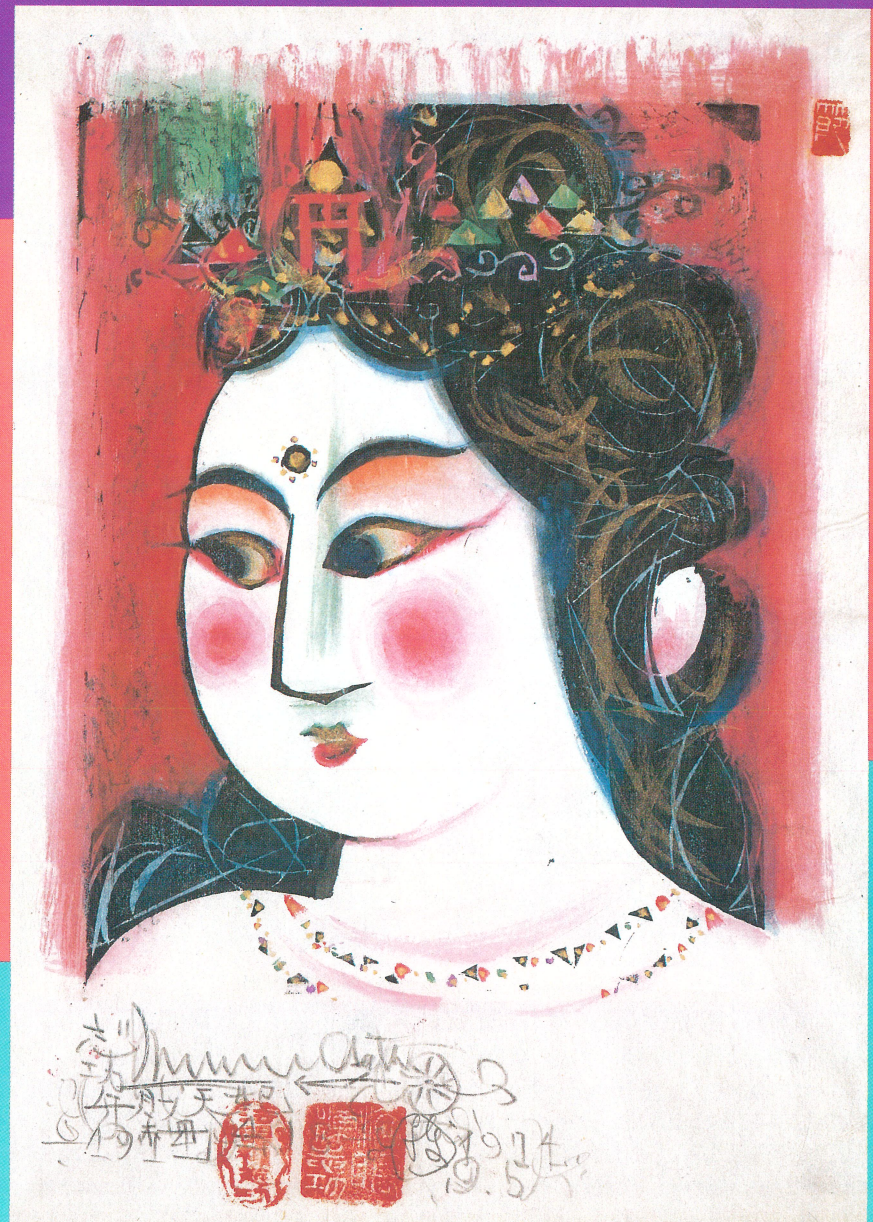
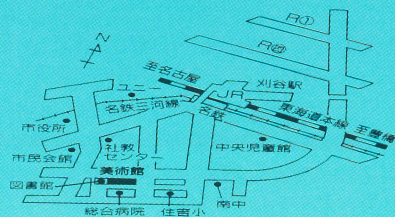
主催=刈谷市・刈谷市教育委員会・中日新聞社
後援=愛知県教育委員会
協力=棟方板画館・棟方志功記念館

入場料=一般800円(600円)・高大生500円(300円)・小中生400円(200円)
※()内は前売り及び20人以上の団体料金

刈谷市美術館

刈谷市住吉町4丁目5番地 Tel(0566)23-1636

JR東海、名鉄「刈谷駅」南口下車徒歩7分



弁財天妃の柵



世界最大の板画「大世界の柵」乾・坤2部作



坤——人類より神々へ

市制40周年記念

棟方志功



鐘溪頌・若栗の柵



鐘溪頌・倭桜の柵



大和し美し 倭建命の柵



太陽花(青図)



星座の花嫁 貴女・裳を引く



ミシシッピー河自板像

棟方志功は明治36年青森に生まれ、幼い頃から「凧絵」や「ネブタの絵」にひかれ、画家を志しました。「わだばゴッホになる」と上京したのは大正13年、21歳の時でした。独学で洋画を学び、白日会展、帝展、(いまの日展)に油絵を出品、昭和3年帝展初入選を果たします。その頃からゴッホも賛美した木版画の独自性に目覚め版画の道を選びます。昭和11年国画会展出品の「大和し美し」で、柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司の知遇を得ます。彼らの卓越した芸術観、宗教観に大きな感化を受け、棟方板画の基礎が築かれます。その後、仏教や経典に多く主題を求めた意欲作を発表し、数々の傑作が生まれました。また、その奔放な感情のほとばしりは、国外でも多くの人々の心をとらえました。昭和

30年のサンパウロ・ビエンナーレ展での版画最高賞、翌31年のベニス・ビエンナーレ展で国際版画大賞を受賞し、一躍「世界のムナカタ」として国際的にも高い評価を得ます。一方、国内では昭和38年藍綬褒章を始め多くの賞が贈られ、昭和45年には文化勲章を受章しました。その奔放な作風と旺盛な制作意欲は晩年まで衰えることがありませんでした。昭和50年に72歳で世界して15年、その作品は今もなお、原始の人にも似た純粋、素朴な心情で、激しく燃える生命の躍動を、私たちの心に与えてくれる魅力を持ち続けています。本展は、青森市「棟方志功記念館」と鎌倉市「棟方板画館」の所蔵する初期から晩年に至る板画、油絵、書、倭画を含む320余点により、志功芸術の真髄を紹介いたします。